

病虫害発生予察特殊報 第3号

害虫名：ユキヤナギハマキフシダニ（仮称）
学名：*Eriophyes* sp.（種名未確定）
作物名：ユキヤナギ

1 発生経過

- (1) 平成27年8月中旬に、県北部地域のユキヤナギ栽培園地で、葉縁巻き（はべりまき）症状（図1）が発生し、葉縁巻き症状内部にフシダニと考えられるダニが確認された。8月下旬に発生園地を調査すると、葉縁巻き症状は園地全体（約90a）のほぼ全てのユキヤナギで発生がみられた。
- (2) 法政大学植物医科学センターの上遠野富士夫教授に同定を依頼した結果、本県では未発生のユキヤナギハマキフシダニ（仮称）と判明した。
- (3) 本種は、平成21年に福島県のユキヤナギ栽培園地で、同様の葉縁巻き症状が確認され、平成22年に国内初確認のフシダニとして特殊報が出されている。

2 形態

雌成虫は淡黄色のうじむし型で、体長は0.2mm内外であり肉眼での確認は困難である（図2）。卵は球形半透明である。

3 生態

武井ら（2015）によると、（1）葉上では展葉から落葉まで成若虫が確認されている。（2）越冬態は雌成虫で、10月上中旬に越冬場所である花芽や葉芽に移動する。越冬雌は葉が展葉する直前には葉芽に集中し、葉芽の萌芽とともに葉上に産卵する。（3）新梢の伸長にともなって未展開葉に次々と寄生して葉縁巻き症状を形成し、その中で産卵・増殖していく。

4 被害及び寄主植物

（1）被害

本種が寄生したユキヤナギでは、枝の先端部分から葉縁巻き症状が見られ、次第に株全体に拡大する。本種は、巻葉内部に生息する。

寄生部位は、肉厚となりピンク色を呈し、古くなると褐変する。被害が大きい場合には、枝物や葉物としての商品価値が著しく低下する。

発生を確認したほ場では、平成27年6月後半から葉縁巻き症状が現れ、10月上旬頃の落葉直前まで確認された。

（2）寄主植物

現在、寄生が確認されているのはユキヤナギのみである。

5 防除対策

- (1) 本種に対する登録農薬はない。
- (2) 本種の被害拡大を防ぐため、発生ほ場及び発生が疑われるほ場からのユキヤナギ株の譲渡や他ほ場への植え替えはしない。
- (3) 葉縁巻き症状のある枝は、埋却するなどして早期に処分する。



図1 葉縁巻き（はべりまき）症状
（野菜花き試験場環境部提供）

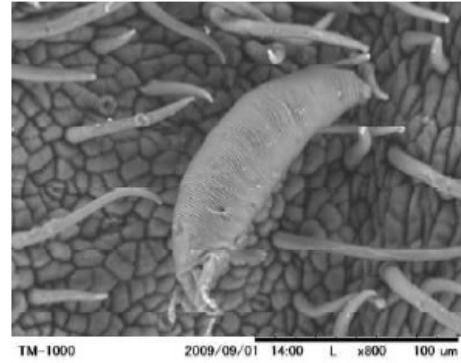


図2 ユキヤナギハマキフシダニ（仮称）
の電子顕微鏡写真（上遠野教授提供）

引用文献：武井円・上遠野富士夫・宮崎俊宏・青山一輝・砂原明日美・三田村敏正・荒川昭弘（2015）：
東京都におけるユキヤナギハマキフシダニ *Eriophyes sp.* の生活環（第 59 回日本応用動物昆虫学会大会
講演要旨 p101）

長野県病害虫防除所 発生予察課
所長：小林文彦
担当：嵯峨裕之
TEL：026-248-6471（直通） FAX：026-248-6473
E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp